

パネルディスカッション「言語力育成に関する視点～新学習指導要領から～」

司会者	香川大学教育学部附属高松小学校	教諭
提案者	香川大学教育学部学校教育	准教授 (理科)
	まんのう町立四条小学校	教諭 (算数)
	香川大学教育学部附属坂出小学校	教諭 (社会)
	香川大学教育学部附属高松小学校	教諭 (国語)
指導者	香川県教育委員会 主任指導主事	
発言者	提案の概要	
司会	新学習指導要領から「言語力育成」について各教科でどのように考えているのか。	
国語	国語科では、言語力育成の中核を担う教科として、記録、報告、解説、推薦などの言語活動を充実。全国学力・学習調査の結果から、話し合い活動に関する問題の正答率が低く、話し合い活動の実体験を多く授業で取り上げる必要性を感じる。	
社会	社会科では、各学年の目標に「考えたことを表現する力」の育成を新たに規定。社会的事象について討論するとき、相手を説得する表現力を身に付けるという点で言語力がかかわってくると考えられる。	
算数	算数科では、「言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動」を規定。問題の求め方を説明するとき言語力が必要となる。	
理科	理科では、「科学的な言葉や観念を使用して考えたり説明したりするなどの学習活動」の充実を新たに規定。観察、実験の結果を考察するとき、表現力を高めるために言語力が大切になってくる。	
司会	どの教科においても、考えを深めていくためには言語を中心とした表現力を高めていくことが必要であることが分かった。各教科では、表現力をどう捉えるのか、またどのようにして児童に身に付けていけばよいか。	
国語	国語科では、表現力を論理立てる力と捉え、そのためには話型をしっかり身に付け、自分の立場や理由をはっきり言えるように訓練する。	
社会	社会科でも話型を大事にしている。話し言葉だけでなく、新聞作り等で文章化するとき自分の言葉に直すことも大切である。	
算数	算数科では、言葉と図、式などを使いこなして表現していく。	
理科	理科では、事実から何が言えるのかを「～ということは」、「だから」などのつなぎ言葉と科学の言葉を活用しながら説明することで、表現力が身に付くのではないか。	
	指導	
	各教科とも授業において様々な工夫や仕掛けを行い、児童の言語力の育成を目指してほしい。	
	表現力を育成するためにまず話型を使って習得するという意見があったが、その次の段階として、話型をいかに崩して自分の言葉にしていくかも大切なのではないか。	
	習得と活用をバランスよく育成してほしい。	